

算数・数学科 中学校第1学年カリキュラム

月	単元・指導内容	学習指導要領の内容	時数	重点化の理由	下学年等での既習事項	円滑な接続への留意事項	上学年等での学習事項	備考 ■実践例、◆課題
4	1章 正負の数 〔正負の数〕 扉、(1)符号のついた数 (2)数の大小 基本の問題	A(1)ア	2 2 1		小学校5年生 「整数と小数」 ・小数の意味 ・十進法の構成と位取り ・小数点の位置			
	〔加法と減法〕 (1)加法 (2)減法 (3)加法と減法の混じった計算 基本の問題	A(1)イ	3 (+2) 2 (+1) 2 (+2) 1	正負の数の計算の習得は重要であり、この後学習する「文字式の計算」や中学校第2学年の「式の計算」等への円滑な接続につながる。そのため、加法、減法のところで十分練習を積む必要がある。	小学校5年生 「整数と小数」 ・十進法の構成と位取り ・小数点の位置	○中学校で、数の符号が導入され、正負の数を学習する。そこで、新たに学んだ正負の数の加法の計算の仕方の理解と徹底を図る。 ○正負の数の減法は、中学校では加法に直して計算することを十分理解させ、その計算の仕方の理解と徹底を図る。	中学校第2学年 「式の計算」 ・多項式の計算	
5	〔乗法と除法〕 (1)乗法 (2)除法 (3)四則の混じった計算 基本の問題	A(1)イ A(1)ウ A(1)エ A(1)イ	4 (+2) 3 (+2) 2 (+1) 1 1	正負の数の計算の習得は重要であり、この後学習する「文字式の計算」や中学校第2学年の「式の計算」等への円滑な接続に重要である。そのため、乗法、除法のところでも十分練習を積む必要がある。また、四則計算が混ざった時、混乱しがちなので、小学校の四則計算を振り返りながら、十分練習する必要がある。	小学校6年生 「分数のかけ算」 「分数のわり算」 「分数倍の意味」	○中学校で、数の符号が導入され、正負の数を学習する。そこで、新たに学んだ正負の数の乗法の計算の仕方の理解と徹底を図る。 ○正負の数の四則計算を確認しながら、文字式の計算においても同様に使えることを確認しながら、文字式の計算の仕方の理解と徹底を図る。	中学校第2学年 「式の計算」 ・多項式の計算 「連立方程式」 ・連立方程式の解き方 ・いろいろな連立方程式 中学校第3学年 「平方根」 ・根号を含む式の加減	■下の式では1～9までの数が順に並んでいます。□の中に+、-、×、÷の記号を入れて、計算の結果が100になるようにしてみよう。 $1+3□34-56+78+9=100$ ◆ $7+(-4)-(-2)$ 、 $\frac{7}{12} \div (-\frac{14}{9})$ 、 $-3^2+(-2) \times (-4)$ といった、四則の混じった計算で落ち込みやすい傾向にある
	〔正負の数の利用〕 (1)正負の数の利用 章の問題、まとめ		1 2					
6	2章 文字と式 〔文字を使った式〕 扉 (1)文字の使用 (2)文字を使った式の表し方 (3)代入と式の値 基本の問題	A(2)ア A(2)イ	1 1 (+1) 5 (+2) 1 (+1) 1	文字式のきまりは、これからの数学のすべての基本になるものであり、ここで十分練習をして習得する必要がある。代入も苦手な生徒が多いので、十分練習する必要がある。	小学校第4学年～ 小学校第6学年 ・未知数に□を用いて立式し、□にあてはまる数を求めること			◆ $x=-5$ のとき、 $3-2x$ の値を求めなさい。 負の数を代入する問題で落ち込みがみられる。
	〔文字式の計算〕 (1)1次式の計算 基本の問題 〔文字式の利用〕 (1)式が表す数量 (2)関係を表す式 基本の問題 章の問題、まとめ	A(2)ウ A(2)エ	5 (+3) 1 2 2 1 3	文字式の計算は、これからの数学のすべての基本になるものであり、ここで十分練習をして習得する必要がある。			中学校第2学年 「式の計算」 ・多項式の計算 ・単項式の乗法と除法	
8	3章 方程式 〔方程式〕 扉、(1)方程式とその解 (2)方程式の解き方 (3)いろいろな方程式 基本の問題	A(3)ア A(3)イ A(2)エ	3 (+1) 1 3 1	方程式の習熟を図ることは、これから学習する、比例と反比例や中学校第2学年の「連立方程式」、中学校第3学年の「2次方程式」への円滑な接続に重要である。	小学校第4学年～小学校第6学年 ・数量関係を□や○を用いた式に表し、あてはまる数を求めること ・数量関係を表す式 ・数量の関係を表す公式		中学校第2学年 「連立方程式」 中学校第3学年 「2次方程式」	◆ $4x-9=2x-15$ $7(x-2)=10x+1$ $\frac{2}{3}x-1=\frac{1}{2}x$
	〔1次方程式の利用〕 (1)1次方程式の利用 基本の問題 〔比例式〕 (1)比例式 基本の問題 章の問題、まとめ	A(3)ウ A(3)ウ	4 (+1) 1 2 1 2	文章題の苦手な生徒が、この課題を解決するため、中学校第1学年のこの時期に重点的に扱うことで中学校第2学年の「連立方程式」や中学校第3学年の「2次方程式」への円滑な接続に重要である。	小学校第4学年～小学校第6学年 ・数量関係を表す式	○文章題の指導を通して、次のような力を育成する。 ①日常生活や事象から条件を読み取る力 ②その条件を数学的な見方ととらえ、式として表現する力 ③式を処理し解決する力	中学校第2学年 ・連立方程式の利用 中学校第3学年 ・2次方程式の利用	

月	単元・指導内容	学習指導要領の内容	時数	重点化の理由	下学年等での既習事項	円滑な接続への留意事項	上学年等での学習事項	備考 ■実践例、◆課題
10	4章 比例と反比例 〔関数〕 (1) 関数 〔比例〕 (1) 比例する量 (2) 比例のグラフ (3) 比例の式を求めること 基本の問題	C(1)ア C(1)イ C(1)ウ C(1)エ	1 4 (+1) 3 1 1	与えられた条件から、 x と y の関係を式に表すことは、中学校第2学年の「1次関数」への円滑な接続に重要である。	小学校5年生 「百分率とグラフ」 ・帯グラフ、円グラフの読み方、書き方、百分率の意味、歩合の意味 小学校第6学年 ・比の意味とその表し方 ・比例の意味とその特徴の考察 ・比例のグラフ	○小学校では、 x 軸と y 軸の交点を「0の点」といったが、中学校からは「原点」ということを確認する。 ○比例のグラフをかくことができ、グラフの特徴が理解できる。	中学校第2学年 「1次関数」 ・1次関数のグラフ ・2元1次方程式のグラフ ・連立方程式とグラフ	◆対応表から、比例の式をつくる。
11	〔反比例〕 (1) 反比例する量 (2) 反比例のグラフ 基本の問題 〔比例と反比例の利用〕 (1) 比例と反比例の利用 章の問題、まとめ	C(1)ア C(1)イ C(1)エ C(1)オ	2 2 1 2 2		小学校第6学年 ・反比例の意味とその特徴の考察 ・反比例のグラフ	○ x の増加量とそれに対する y の増加量との関係を、グラフを用いて調べることができる。		◆比例・反比例のグラフ ◆「 y は x に反比例し、 $x=3$ のとき $y=-8$ です。 y を x の式で表しなさい。」といった反比例の式をつくる問題が苦手な傾向にある。
12	5章 平面図形 〔図形の移動〕 扉、(1) 移動 (2) 円とおうぎ形 基本の問題	B(1)ア	5 3 1		小学校第6学年 「拡大図と縮図」 「対称な図形」	○記号を用いた約分や角の表し方	中学校第2学年 ・平行と合同 ・図形の性質 中学校第3学年 ・相似な図形 ・円周角と中心角	◆角を文字を使って表す問題が苦手な傾向にある。
	〔基本の作図〕 (1) 作図のしかた (2) 基本の作図 (3) いろいろな作図 基本の問題 章の問題、まとめ	B(1)イ	1 4 2 1 2			○作図（コンパス、定規の使い方）の仕方、垂線、垂直二等分線、角の二等分線の作図と点の集合としての意味について理解させる。		◆垂直二等分線の作図
1	6章 空間図形 〔いろいろな立体〕 扉 (1) いろいろな立体	B(2)ア	1 2		小学生1年生 ・角柱、円柱の素地 小学校第5学年 「角柱や曲線図形」	○図形の名前、仲間分けができ、特徴について説明できる。	中学校第3学年 ・三平方の定理	
	〔立体のいろいろな見方と調べ方〕 (1) 直線や平面の平行と垂直 (2) 面の動き (3) 投影図 (4) 立体の展開図	B(2)ア B(2)イ	3 1 1 3					◆立体の見取図を見て、辺や面の関係が垂直、平行、ねじれの位置にある関係の把握が苦手な傾向にある。
	〔立体の表面積と体積〕 (1) 表面積 (2) 体積 (3) 球の表面積と体積 基本の問題 章の問題、まとめ	B(2)ウ	2 2 1 1 2		小学生3年生 ・球の概念、性質			◆円の円周と面積の求め方を確認する必要がある。
	7章 資料の散らばりと代表値 〔資料の散らばりと代表値〕 扉、(1) 度数の分布 (2) 範囲と代表値 (3) 資料の活用 基本の問題	D(1)ア D(1)イ	4 2 2 1		小学校6学年 ・資料の比べ方		中学校第3学年 ・資料の活用	
3	〔近似値と有効数字〕 (1) 近似値 (2) 有効数字 基本の問題 章の問題 まとめ		1 1 1 1 2		小学校6学年 ・資料の比べ方		中学校第3学年 ・資料の活用	
	合計		140					